

7. インリーダー研修会

1. インリーダーとは

インリーダーとは、子ども会のなかのリーダーのことです。これに対し外部からの指導者をアウトリーダーといいます。

2. インリーダー研修会とは

子どもたちが自主的に活動できるようにインリーダーを養成する研修会を「インリーダー研修会」といいます。

泉区では5年生を対象として研修会を実施してもらうため、400円×全5年生数（平成20年度）を「インリーダー研修会助成金」として各校区に交付しています。

5年生が少ない校区では4年生も交えて行ったり、6年生になってすぐに行ったりと、校区の事情に合わせて実施方法はさまざまです。

3. 対象を5年生全員とする理由

泉区では受講対象者を5年生全員としています。それは多くの子どもたちに研修に参加する機会を与えたいと考えるからです。

子どもたちは多くの経験の積み重ねによって大きく成長します。特定のリーダーを育てるのではなく、参加した子どもたち全員がリーダーであることを認識させ、自信を持って子ども会活動に参加できるように意識付けをすることが必要です。

参加した5年生全員がそれぞれに役割分担をしながら研修を行うことが、実際に活動をする際に生かされ、役立ちます。

4. 子ども会を子どもの手に戻すために

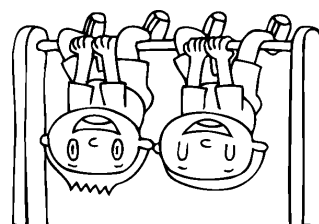
子ども会は「子どもたち自らが、自分たちで話し合い、計画を立て、それぞれに仕事を分担し合って、自分たちが楽しめる活動をのびのびと行い、達成感を分かち合える」活動です。

確かにこのように活動することは理想的ですが、校区の負担が大きくなることも事実でしょう。しかし、大人の都合で組まれた子ども会活動に、魅力を感じる子どもたちは減り続けており、子ども会への加入率も低下している現状があります。

このような今だからこそ、地域を基盤とし、異年齢集団での遊びを通じて心身の成長や発達を促す子ども会活動が必要なのではないでしょうか。子ども会を子どもの手に返すこと、そしてインリーダー研修会はそのきっかけとなる重要なものである

ということを、ぜひ多くの育成者に認識してほしいと思います。

実施にあたっては、“今までどおり”ではなく、目的にかなっているかどうかを新しい役員で話し合い、見直しながら行ってみてはいかがでしょうか。



5. 校区育成会の負担を軽減するために

やるからには、楽しく実りある研修会にしたいものです。そこで、少しでも校区の負担を軽減し、より効果的に行うためのヒントを3つご紹介します。

ヒントその1 インリーダー研修の目的を考える

目的をよく考え、目的に見合った、テーマを絞った研修プログラムを立てると、その成果も上がります。「子どもたちが自主的に活動できるよう、インリーダー（子ども会の上級生リーダー）を養成する研修会」これがインリーダー研修会の目的です。

ヒントその2 外部講師を依頼する

研修会の内容を全て校区で考えて実施するのは本当に大変なことです。毎年役員が交代する校区はなおさらです。そんな時頼れるのが外部講師です。

泉区では、嘱託社会教育主事、シニアリーダー、ジュニアリーダー、専門指導委員など多くの方が育成者のサポートや子どもたちへの指導などの活動しています。このような人たちに講師を依頼することは、校区にとっては専門知識や経験のある指導者の研修会を行うことができ、講師にとっては地域の情報を得ることができ、さらに経験を積むことができるという、双方にとってメリットのある方法です。

外部講師は、「企画段階から一緒に」依頼するのがポイントです。

講師謝礼については、嘱託社会教育主事は一日8,000円（半日だと4,000円）ほどかかりますが、シニアリーダー、ジュニアリーダー、専門指導委員は実費交通費のみで依頼することができます。

ヒントその3 複数校区で共催する

近隣の校区で共催することによって、仕事が分担でき、経費が節減でき、役員同士の情報交換が出来、子どもたちは他の小学校の子どもたちと交流することが出来ます。

研修会についてのご相談は泉区子ども会育成会事務局へ。また、研修会で使用する危険予知トレーニング教材やマジックペン、セロハンテープやはさみなどの文具類やブルーシート、救急箱などの貸し出しも行っています。遠慮なくお申し出ください。

6. 広報のコツ

せっかく研修会を実施しても、参加者があまりにも少ないと意欲が失われ、効果も上がりません。事前の広報活動はとても大切です。

- ・学校にポスターやチラシをお願いし、参加を呼びかけてもらう
- ・校区の広報紙に、募集案内や参加者の声、結果報告などを載せる
- ・単位子ども会などの定例会などでPRする

また、研修会といっても真面目な内容ばかりではなく、ジュニアリーダーと遊ぶ時間を設けるなど、子どもたちが楽しめるプログラムも入れてみると「楽しかったよ!」という声が口コミで次の参加者増につながっていくでしょう。ポスターやチラシも、イラストなどを入れて楽しそうな雰囲気のものにする一工夫があるといいでしょう。

7. ジュニアリーダーの活用について

校区にジュニアリーダーがいる場合には、ぜひ、インリーダー研修会に彼らの出番を作り、活用してください。研修会をきっかけに、子どもたちにとって身近なお兄さん、お姉さんができるといふことはとても幸せなことです。そして子どもたちのなかから「自分もジュニアリーダーになりたい」と目指す子どもが増えたら、それは子ども会だけでなく地域全体の活性化や健全育成につながります。

ジュニアリーダーはこれまでもプログラム作りや危険予知トレーニングの指導など、積極的にインリーダー研修会で活動しています。当日のお手伝いだけではなく、

研修会の企画から育成者と一緒に参加できる機会をつくってください。

8. プログラムの例

①日帰り研修会の例（●●校区）

開催場所	△△市民センター		
講師	嘱託社会教育主事 1 名 泉区子ども会育成会専門指導委員 ジュニアリーダー 6 名		
参加人数	5 年生 44 名 大人 37 名	経 費	弁当代 (@500 円未満)、嘱託社会教育主事への謝礼 (4,000 円)、 ジュニアリーダーへの謝礼 (500 円の図書券) 総経費 50, 000 円
内 容	<p>9時45分 開会式、校歌斉唱</p> <p>10時～12時 5年生研修 講師：嘱託社会教育主事 ○○小 □□先生 「子ども会ってなァに」と題し、歓送迎会のプログラムの立て方を地域ごとに学ぶ ※単位子ども会世話人1名ずつ参加</p> <p>育成者研修 講師：泉区子ども会育成会専門指導委員 育成会活動と子ども会の関わりについて自由に質疑応答</p> <p>12時～13時 昼食</p> <p>13時～14時 ジュニアリーダーと遊ぼう 閉会</p> <p>終了後、役員とジュニアリーダーで反省会</p>		
感 想	<p>去年から、インリーダー研修会で歓送迎会のプログラムを作成し、それを実際の歓送迎会で5年生が実施できるように工夫した。</p> <p>また、子どもたちが実際に行うには、子ども会役員の理解と協力が必要なことから、単位子ども会の世話人にも参加してもらった。</p> <p>育成者研修会の講師を泉区子ども会育成会の塩川会長にお願いしたが、身近な話題を入れた分かりやすい内容で好評であった。</p> <p>反省事項としては、初めて役員をする方が多かったので、何を質問していいかわからず、事前に質問事項を考えてもらうなどの工夫が必要だったかもしれない。</p>		

②宿泊研修会の例（〇〇校区、△△校区 2 校区合同）

開催場所	宮城県泉が岳自然の家		
講師	シニアリーダー 9名 ジュニアリーダー 14名		
参加人数	5年生 109名 大人 11名	経費	校区支出 205,043円 参加費 1名 2,700円
内容	<p>（一日目） 開講式・グループ活動・館内オリエンテーリング・キャンドルセレモニー等</p> <p>（二日目） ゲームオリンピック・閉講式等</p>		
感想	<p>2校区合同での一泊研修は、学校での友達関係を飛び越えた関わりが作れる機会でもあり、子どもたちにとっては楽しく貴重な体験となった。</p> <p>子どもたちと直接生活を共にするのがジュニアリーダーやシニアリーダーであり、同じ泉が岳での研修でも、学校で行う野外活動とはまったく違った宿泊体験となる。</p> <p>一泊研修のため、事前の打ち合わせや準備には時間が必要であり、2校区合同のため、連絡等が多少煩雑になるが、回を重ねているので、抑えるポイントはほぼわかるようになってきた。</p>		

③日帰り研修会の例（□□校区）

開催場所	□□公園キャンプ場		
講師	ジュニアリーダー10名		
参加人数	5・6年生 60名 大人 20名	経費	写真・アルバム代、飲食代、バス代、その他（保険など） 総経費 140,000円
内容	<p>野外炊飯（カレー作り）</p> <p>オリエンテーリング</p> <p>結果発表とゲーム</p>		
感想	<p>インリーダー研修とジュニアリーダーの活性化を目的として行なった。企画の段階からジュニアリーダーにも参加してもらい、会場の下見やプログラム作成、グループ分けなどをお願いし、当日もプログラムの大半の進行をジュニアリーダーが行なった。</p> <p>ジュニアリーダーと協力して行なうことで、大人の負担も軽減でき、ジュニアリーダーにとっても活動のPRや活性化につながり、有意義だった。</p>		